

第14回 積丹ソーラン 味覚祭り



積丹の初夏の一大イベント、第14回「積丹ソーラン味覚祭り」が6月30日、美国漁港広場で行われ、町内外から訪れた約2万2千人が積丹町自慢の食やステージを楽しみました。

素晴らしい快晴に恵まれた会場では、販売前から長蛇の列ができ、来場者が買い求めた、積丹自慢の鮮魚や加工品、限定700食の浜鍋、姉妹都市高知県香美市からのカツオのタタキや香り高いゆず製品などが販売され、積丹町の「食」に来場者は思わず顔をほころばせていました。

一方、ステージでは、YOSAKOIソーラン祭りの名門「平岸天神」や、毎年イベントのスタッフとしても応援していただいている「北海道大学 縁」による迫力ある演舞、町の伝統芸能「正調鯉場音頭」などが会場を沸かせたほか、陸上自衛隊第11音楽隊の演奏「ウニ剥きコンテスト」や歌謡ショー、ゆるキャラ紹介、「本場カツオのわら焼きタタキの実演」も行われ、会場からは大きな拍手と歓声が響いていました。

最後は、恒例の「豊漁豊作餅まき」で、今年の初夏の祭典の一日が終わりました。

また、ボランティアとして味覚祭りの後片付け等を手伝っていただいた株式会社北海道ロードサービス（札幌市）に、味覚祭り実行委員会から感謝状を贈呈しました。

令和元年 例大祭

今年も7月1日の入舸稲荷神社を皮切りに町内各地区で伝統ある例大祭が行われ、やっこ行列や神輿、山車などそれぞれ特色あるお祭りを地域住民やこの日のために帰省した人たち、さらに美国神社祭典には、札幌大谷大学の学生が参加して盛り上げました。

初夏の日差しが降り注ぐ中、威勢の良い掛け声や歓声が飛び交っていました。

※野塚・日司・幌武意地区は市街地の神輿渡御がありませんでした。



神威



入舸



美国



7月16日、知事の地域訪問事業「こんにちは。鈴木直道です。」で、鈴木知事が北後志を訪問。余市町役場で北後志市町村長や地域づくりに携わる方々との意見交換を行った後、地域の特色ある取組を直接聞き、広く発信していく「なみちカフェ」と題した取組で、知事が当町を訪れ、鯨伝習館ヤマシメ番屋や石蔵などを視察されま

した。視察では、やん集小道協議会の別所範一代表、河岸悟郎さん、戸来和子さんが番屋や石蔵を案内し、当時のニシン漁で使用されていた漁具などを紹介しました。また、知事との懇談で、別所代表が、番屋や石蔵の歴史的価値を郷土の遺産として後世へ伝えようと修復保全活動に取組んできたこれまでの経緯を説明しました。

更に、「積丹はウニの町として知られているが、実際はニシンの町。今後様々なイベントなどでこの場所を活用し、たくさんの人に知ってもらいたい。」と話し、鈴木知事からは「歴史的建造物を残したいという、皆さんの郷土愛の情熱の結集があつたからこそだと思いません。」と激励されています。

鈴木直道知事が来町 ”ヤマシメ番屋”で懇談会